

喜多流 第46回

中尊寺 薪能

6月2日(月) 10時 チケット発売開始

令和7年8月14日(木)午後4時20分始
中尊寺白山神社能舞台

祭儀
火入之儀

仕舞
鳥追船

友枝真也

アト・田代善

石田幸雄

和泉流
狂言
六地藏

野村万作

立業・十っば仲間

高野和憲
破石晋照
野村裕基

能
天鼓
佐々木多門

後シテ・天鼓
前シテ・天鼓の又
ワキ・勧使
テイ・官人
宝生常三
野村萬齋

終演予定 一九・一五頃

奉賛観能券

S 一〇、〇〇〇円
A 七、〇〇〇円(当日八、〇〇〇円)
B 四、〇〇〇円(当日五、〇〇〇円)
学生 三、〇〇〇円

お申込み 中尊寺薪能の会 電話(〇一九二)四六一二二一〇

※雨天も催行(正面席は屋根架設) ※写真撮影・録音・録画不可

〈喜多流〉

中尊寺 薪能

たきぎ

のう

一六・二〇一

祭 儀 白山神社宮司

火入之儀 薪能奉行

仕舞 鳥追船

友枝 真也

地謡

谷 友矩
大島輝久
内田成信
塩津圭介

和泉流

狂言 六地藏

シテ・すっぱ 野村 万作

立衆・すっぱ仲間

高野 和憲
破石 晋照
野村 裕基

後見 野村 萬齋

(休憩)

一七・四五一



写真「六地藏」

万作の会 提供

能 天鼓

後シテ・天鼓の父

佐々木 多門

アイ・官人 野村 萬齋

大鼓 亀井洋佑 太鼓 小寺真佐人
小鼓 森 貴史 笛 一噌隆之

後見

塩津哲生
中村邦生

地謡

佐藤寛泰 友枝雄人
大島輝久 長島 茂
金子敬一郎 出雲康雅
塩津圭介 狩野了一

終演予定 一九・一五頃

仕舞 「鳥追船」

夫が都に訴訟のため上つて十年がたち、留守を預かる家人は変心を起こし、主人の妻子に田に群がる鳥を追うように仕向ける。鼓や鳴子で飾った舟に乗つて、遠く離れた夫を想いつつ鳥を追う妻の恋慕の舞。

狂言 「六地藏」

田舎者が地藏堂に六体の地藏を安置しようとするに仏師を探しにいきます。すると徒者(いたすらもの)のすっぱ(詐欺師)が声をかけてきて、自分こそが真の仏師であると偽り、翌日までに六地藏をつくる約束をして田舎者と別れます。すっぱは仲間を呼び出し、地藏に化けて田舎者をだますことに。さて翌日、田舎者が地藏を受け取りにやってくる、地藏は三休しか見あたらない。もう三休はどこにと問うと……。演者が所狭しと舞台を駆け回る賑やかな作品です。すっぱは田舎者をだまし通せるのでしょうか。本舞台と橋掛りを上手く使った、狂言ならではの表現もお楽しみ下さい。

能 「天鼓」

中国後漢の時代に王伯・王母という夫婦があり、天より鼓が降り下つて胎内に宿る夢を見て授かった男の子を、天鼓と名付けて慈しみ育てました。その後天より鼓が本当に降つてきて、天鼓が打ち鳴らすと妙音を発したので、天鼓はその鼓をとて愛しんでいたところ、帝よりその鼓を献上するように勅命が下ります。天鼓は命を背いて山に隠れましたが、いに捕まり、呂水の江に沈められ殺されてしまいました。しかしその後、鼓は誰が打つても鳴らなくなっていました。

子を失つて悲しんでいる王伯(前シテ)のもとへ、親子であれば鼓が鳴るであろうと、鼓を打つように勅使(ワキ)が遣わされます。王伯は形見の鼓を前にして、子と死に別れた哀しみを深く嘆きますが、やがて促されて鼓を打つたところ、鼓は心に響く音を出し、帝も親子の情愛の力に感動し、天鼓の用いを約束して宝を与えて帰すのでした。

(中人)

呂水のほとりで天鼓の追善供養として、鼓を据えて管弦講を営むと、天鼓の霊(後シテ)が甲に感謝して姿を現します。愛する鼓をまた打つことの喜びに、思うさま打ち鳴らして爽やかに舞い興じて、天鼓は幻のごとく見えなくなるのでした。

表「天鼓」使用写真 佐々木多門 所演